



今月の江戸しぐさ

「桜切るばか、梅切らぬばか」

3月

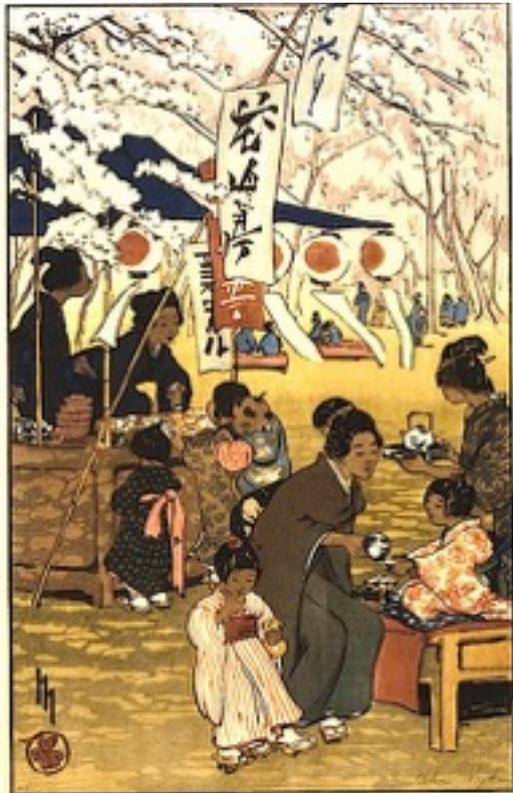
桜は腐朽菌が入りやすく樹勢が衰えるのでむやみに切るな、梅は放置するときまざまな方向に伸びて交差し、ふところの部分の栄養が阻害されて樹勢が衰えるので積極的に剪定せよ、という園芸のことわざです。

しかし「モミジはいばらせろ」などの多くの園芸に関する伝承と異なり、広く伝えられてきたのは普遍的な意味があったからだと推測されます。

人などの個体はそれぞれの個性、特性があります。それぞれの特性に合った世話の仕方があることを教えています。

病院は病を介して長い期間、人と濃厚に接触する仕事です。人それぞれに個体差があり、接触のしかたは柔軟であるべきで、病院が大きくなるにしたがってありがちな、マクドナルドなどの短い接触でありがちな画一的な対応であるべきではないと考えます。

また人は時間の経過と病状により変化するものです。人の個体差、病状の変化に柔軟に対応できる病院でありたいものです。



※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

判断の基準は粋かどうかだったようです。

粋の概念は武士の武士道に対抗するものだったという説があります。他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。

ヘレン・ハイド

Helen Hyde(1868~1919)

日本を愛したアメリカ人版画家。江戸の風情が強く残っていた明治期に10年以上滞在し、女性の視点から愛らしい子供の作品をたくさん残してくれました。



当時の外国の観察者の多くが、西洋諸国と子供の様子や子育ての考え方が根本的に異なっていることに驚いていました。